



カントウータ

Cantuta

No. 35



ティワナク遺跡・太陽の門 (撮影者 椿 秀洋)

- | | | |
|---|----------------------------------|-------|
| 1 | ボリビアの政治・経済の近況 | 島袋 正克 |
| 2 | 不思議な縁 世界は狭い
ーボリビアと日本を繋ぐ日系人の絆ー | 小林 正博 |
| 3 | ボリビアの都市音楽「folklore」の成立 | 牧野 翔 |
| 4 | アンデスのマカ不思議 | 川上 裕二 |
| 5 | じゃがいもの旅の物語 (連載24号) | 杉田 房子 |

一般社団法人日本ボリビア協会 ASOCIACIÓN NIPPON-BOLIVIA

<http://nipponbolivia.org>

2. 不思議な縁 世界は狭いーボリビアと日本を結ぶ日系人の絆ー

一般社団法人 JBN・全国工務店協会
事務局長
小林 正博

今から6年前の春、JICAを早期退職し神奈川県中部の金属屋根メーカー元旦ビューティ工業(株)に就職して間もない休日、娘夫婦のバーベキュー・パーティーに出かけた。そこで出会ったのが知花賢伸と賢正というボリビアの日本人移住地コロニア・オキナワ生まれの兄弟である。

兄の賢伸氏はボリビア東部の同国第2の都市サンタクルス市にあるガブリエル・レネ・モレノ自治大学卒の獣医、弟の賢正氏は歯科医だが、80年代末のハイパーインフレの後に来日し、二人で修業を重ね、力を合わせて神奈川県西部に住宅の金属屋根を施工する「(有)K&K 板金工業」(以下 K&K という)という会社を立ち上げていた。他方、私が働く元旦ビューティ工業は、公共施設など大型物件が中心、一方のK&Kは住宅が中心なので、両社は協力も競合もしていなかったが、たまたま、私の義理の息子がK&K知花兄弟の下で働く屋根職人だったという縁である。

そして、やはりバーベキューに参加していた賢正夫人は、私の79年のブラジル初出張以来、その後のJICAブラジル事務所時代にも何度となく通ったアマゾンのトメアス移住地生まれで、期せずして懐かしい思い出話となった。また、知花家の長女、つまり二人の兄弟の姉は看護師で、JICA中南米部時代に訪ねたコロニア・オキナワ診療所長の玉城静雄先生夫人であることも分かり、「世界は狭い、悪いことは出来ない」とあらためて感じた春の休日であった。

祖国ボリビアへの思い

知花兄弟の第二の祖国ボリビアへの思いは強く、日本で学んだ知識・技術をいつかボリビアの役に

立てたい、日本の優れた製品を提供してボリビアの人々の生活を良くしたいと常々考えていることが判った。そのような思いを後押しするため、中小企業海外展開支援の一環として折からJICAが募集していた「中南米日系社会との連携調査団」への参加を薦めたところ、知花賢伸氏とK&Kに金属屋根「マックス瓦」を供給し、緊密に連携するマックス建材(株)の榎本浩康代表が、それぞれ第3回と第4回の調査団に参加した。



写真3-1 サンタクルス市会議長訪問

これによってK&Kとマックス建材には、中南米日系社会とのネットワークとともに中南米に関心を持つ日本国内の中小企業経営者とのネットワークも生まれたわけである。その後JICAの日系青年研修制度により、サンタクルスから日系人の若者二人を10ヵ月にわたりK&K及びマックス建材とその協力会社で受入れ、屋根の施工や板金について技術習得を図った。そのうちの一人が玉城雄一君で、玉城先生の長男であり、また知花兄弟の甥でもあった。日本語より英語が得意な雄一君を懸命に支えたのがハワイ大学を出てマックス建材社員となっていた榎本瑞生さん、榎本代表の姪である。その三年後、二人は結婚し、現在はサンタクルスに住んでいる。人と人の縁と出会いの妙味である。

ボリビアに進出する中小企業のための基礎調査

アジアなどに比べると、中南米に出ようとする日本の中小企業はまだ少ない。そこで、マックス建材が中心となって JICA の中小企業海外展開支援のための「基礎調査」に応募し、幸運にも採用された。元旦ビューティ工業も私の入社後間もなく、近い将来にベトナムへ海外展開することを想定して JICA の同種の調査に応募して、私自身がプロジェクトマネージャーとして同調査を進める経験をしていた。そのようなこともあり、知花、榎本両氏からの依頼を受けて両社間のコンサルタント契約により、ボリビアを対象とする基礎調査に参加することとなった。「ボリビア多民族国での金属屋根を利用した居住環境向上、及び住宅産業育成に関する基礎調査」のスタートである。そのお陰で、2017 年の 11 月と翌 18 年の 4 月に短期間ながらボリビアを訪れる機会を得た。事前準備の一つは、共に、かのチェ・ゲバラも登場し、沖縄ウチナンチュ女性のマブイ（魂）と肉体の遍歴を描いた冒険反戦小説、池上永一著「ヒストリア」を読むことであり、オダギリジョー主演の映画「エルネスト」を観ること、そんな時期でもあった。

ボリビアの人が買える屋根

ボリビアを含む中南米地域では、このところ年平均 5% の高い経済成長と所得の増大とともに「暮らしの質の向上」へのニーズが高まっている。エボ・モラレス政権が 2013 年 1 月に打ち出した独立 200 周年に向けた国家発展計画「祖国ボリビア・アジェンダ 2025」によると、2015～2020 年に新たに 11 万 5,000 棟の住宅に投資することが政治公約されるなど「住宅問題への積極的な取り組み」が謳われている。そのようなボリビアだが、屋根をはじめとする住宅市場はまだ十分には育っておらず、在来の住宅工法では多様なニーズに応えられないため、貧富の差が居住環境の格差に顕著に現れている。たとえば、低所得層では家の壁・屋根に砂・粘土・藁などで作った重い煉瓦や日干し

瓦を使用し、中所得層では壁にセメントを用いつつあるが、屋根は依然として耐久性に劣る日干し瓦も多く、ひび割れによる雨漏りや落下の危険など、現状では、居住環境の快適さや安心・安全が確保されているとは言い難い。そのため我々の基礎調査では、ボリビアの居住環境の改善と質の向上への一つの手段として、軽量で耐久性のある金属屋根のマックス瓦をボリビアに導入し、その工場を建設するとともに生産・施工技術者を育成し、雇用の創出にも貢献することを目標として掲げた。



写真 3-2 レネモレノ大学建築学部長へマックス瓦をプレゼン



写真 3-3 サンタクルス市の一般的コロニアル瓦屋根

知花兄弟の母親が住むサンタクルス県の中心都市サンタクルス・デ・ラ・シェラは一年を通して温暖な気候だが、時々南極方向からのスール(SUR)と呼ばれる強い南風が吹いて気温が急激に下がり、

突風となることがある。そのため、サンタクルス
の建築に求められる大切な設計条件は、突風・強
風に対する耐風圧強度であるとされているが、金
属屋根は強風にめっぽう強いことが特徴だ。一方、
サンタクルス市及び周辺地域における住宅価格は、
規模や品質により様々であるが、低価格帯の平均
的な土地付き住宅価格は、平均床面積が150～200
㎡程度で、平均価格は7～8万米ドル程度となっ
ている。つまり、この価格帯で屋根のコストを一定
の範囲内に収めることが最大の難題であるが、現
地のごく普通の市民が買えるこの価格帯で金属屋
根を導入すれば解決策になる。そのためには、サ
ンタクルスでの現地生産体制を整えると共に、材
料のガルバリウム鋼板を出来るだけ安価に入手
することが当面の課題である。引き続き、知花氏
や榎本氏など関係者が協力し合って、原材料の調
達と製造のコストを下げる懸命の努力が現在続い
ている。

故郷に錦は飾れるか

ボリビアの住宅屋根の種類としては、①コロニ
アル瓦(窯製陶器のスペイン瓦)屋根 ②スレート
瓦屋根 ③トタン屋根 ④陸屋根(セメント等によ
るスラブ屋根)の4種類が大半を占めているが、
サンタクルスにおける住宅屋根について、コロニ
アル瓦が約7割、その他が3割程度であり、前者
が安定した人気を誇っている。そのため、新製品
である金属屋根のマックス瓦についてもコロニア
ル瓦をイメージしたオレンジ色の製品を試作し、
市場の要求に応えようとしている。他方で首都ラ
パスは、コロニアル瓦よりトタン屋根が多くみら
れ、名物の「テレフェリコ」と呼ばれるロープウ
ェイからの眺めは、町全体が錆びたトタン屋根の
ために周囲のラテライト(紅土)と相まって赤茶
けた印象に映る。もともと金属のトタン屋根は、
陶器瓦であるコロニアル瓦よりも対候性・耐久性
が高く、錆にも強い金属屋根に置き換わり易い
と言える。その点では、サンタクルスよりラパスの

方が市場としては有望であろう。ただ、知花兄弟
が故郷に錦を飾る、いや、故郷に尽くすという意
味からも、金属屋根製造工場はサンタクルスに建
設し、そこを拠点とすることを我々は目指してい
る。ラパスは将来的にはポテンシャルの高い市場
だが、先ずは知花兄弟にとってラパスよりも人の
絆も空気も濃いサンタクルスで、かいっぱい金属
屋根の製造・販売・施工に取り組んでいこうとこ
つこつと準備に努めているところだ。

私自身は、2回の現地調査に基づいた報告書を
JICAに提出したあと、元旦ビューティ工業から街
の大工さんの協会に転職した。このため、現在は
知花兄弟や榎本代表と一緒に活動はできていない
が、これからもこの素晴らしい友人達のために、
出来る限りのお手伝いを続けて行きたいと思うこ
の頃である。(終わり)

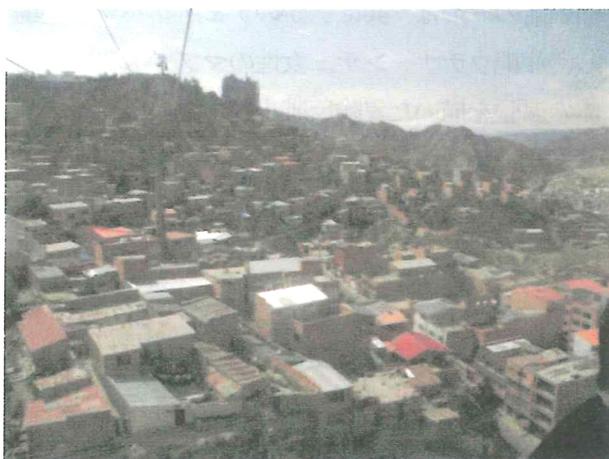


写真3-4 錆びたトタン屋根の多い首都ラパスの風景